



紀の国の教育

第
47
号

和歌山県教育広報紙

Wakayama Prefecture Education Public Relations Paper

令和4(2022)年7月発行



本って面白い! 読書のススメ講座

県立貴志川高校にて

特集
読書文化が
根付く**和歌山県**を
めざして



目次

- P4 … 変わる、進化する、わかやまの教育のすがた
第42回近畿高等学校総合文化祭和歌山大会
- P5 … ゴールデンキッズ発掘プロジェクト、展示・イベント
- P6 … きのくにコミュニティスクール(印南町)
- P7 … きのくに教育めぐり(新宮市教育委員会)

読書文化が根付く 和歌山県をめざして

社会教育委員会議から ～子どもたちの発達段階に応じた読書活動を～

- 乳児期.....身近な大人が子どもと本との出会いを創り、一緒に本で遊ぶ。
- 幼児から小学校低学年.....周りの大人の読み聞かせ等を通して、集団で読書を楽しむ。
- 小学校高学年から高校生.....家族や仲間と本の話話を共有する中で、子どもが自分で本に手を伸ばしていく。



※社会教育委員会とは、社会教育法に基づき設置され、教育委員会に対して助言を行う機関です。



読書は、語彙を増やし、表現力を高め、感性や想像力を豊かにします。知識や教養を高め、視野や世界をどんどん広げます。

リラックス効果があるとも言われ、ストレスを軽減し、私たちの暮らしの質を高めてくれます。

読書のある生活は、私たちに豊かな人生をもたらしてくれることでしょう。

県では、今期の和歌山県社会教育委員会議において、「読書文化の醸成に向けて～生涯にわたり読書に親しむために～」というテーマで審議を行いました。そして、この実現には、子供たちが読書文化を構築するために、私たち大人が担う役割が重要であると考えました。家庭教育・学校教育・社会教育が手を携えて、大人と子供の読書活動を支える場と機会を創っていきましょう。

また、こうした議論を踏まえ、県民の読書文化をより一層醸成するために、様々な「読書を楽しむ習慣づくり事業」を引き続き展開していきます。

家族みんなで読書に親しむことを呼びかける キャッチフレーズを募集しました【入賞作品決定】

いろいろな世代に向けて読書の良さや楽しさを伝えるとともに、読書について考える機会とするため、「家族みんなで読書に親しむことを呼びかけるキャッチフレーズ」を募集しました。県内各地から1,424点の応募があり、その中から最優秀賞4点、優秀賞4点、佳作14点を決定しました。最優秀賞、優秀賞の作品は次の通りです。



- 【最優秀賞】(乳幼児期部門) 絵本大好き! お膝で隣でお布団で♡(林まゆみさん)
- (学童期部門) ぼくのむね ページとはずむ家読時間(一ノ瀬拓大さん)
- (青年期部門) 画面に触れるその指を、ページをめくるこの指に。(真珠杏莉さん)
- (成人部門) 推し本活、はじめませんか?(木村明子さん)

- 【優秀賞】(乳幼児期部門) 好きな本 選んで楽しく 読み聞かせ(中川祐一さん)
- (学童期部門) ねえ、ねえ!一緒に本の世界にとびこも!(小田さくらさん)
- (青年期部門) 行間を読めたら、大人に近づいた。(水谷真弓さん)
- (成人部門) 本で時間が溶けていく(榎本菜那さん)



表彰式

「読書を楽しむ習慣づくり事業」の取組

ひろがるつながる 本のボランティア講座 【地域人材養成講座】



地域における読書活動の担い手の充実を図り、ボランティアによる読書活動の推進に繋げるため、自治体や団体等の求めに応じて、子供の読書活動推進に尽力いただける方を対象に、読み聞かせや図書整理などをメニューとした地域人材養成講座を開催しています。



田辺市で行われた講座

本って面白い! 読書のススメ講座 【高校生向け講座】



高校生を対象に、読み聞かせやビブリオバトル(好きな本を一定の時間内で紹介しあうゲーム)などをメニューとした講座を開催しています。読書の魅力に気づいてもらうとともに、将来自分の子供や身の回りの人にも読書の良さや面白さ、大切さを伝えてもらうための啓発を目的としています。



高校生が読み聞かせに挑戦中

リサイクル図書用 書架の寄贈



身近で本を手に入る機会を増やすために、地域の方に本を提供する活動を行う施設や団体に対して、近隣の高等学校や特別支援学校の生徒が製作した書架を寄贈しています。

〈書架贈呈式〉



かつらぎ町四邑公民館
(製作:県立きのかわ支援学校の生徒)



認定NPO法人健康とコミュニティを支援するなるこみ
(製作:県立和歌山工業高等学校の生徒)

読書推進フォーラム 【令和4年2月26日(土)県民文化会館、他】



新美南吉の「ごんぎつね」を朗読する山根世氏

子供から大人まで年齢に関係なく、読書の楽しさや素晴らしさを実感するとともに、地域全体で読書について考えていけるよう、読書推進フォーラムを開催しています。

令和3年度は、「見て、聴いて、読んで、本の世界に親しもう!～人生を豊かにする読書との出会い～」をテーマに、アナウンサーの山根世氏による朗読と講演、道化師・紙芝居実演家の塚原成幸氏によるアトラクションの他、「読書文化が根付く和歌山をめざして」をテーマにシンポジウムを行いました。

～参加者の声～

●人が個として自立するために感謝の心を持ち、それを表現することの大切さを学んだ。そのためには、読書が重要な役割を果たすのだと実感した。

●幅広い世代の人との関わりや数多くの本の触れ合いが「言葉の力」を育てていくことを学びました。この学びを生かして、子供たちの言語化する力を育てていきたいと強く思いました。

●言葉の力は、生きる力の重要な要素であり、その育成を図るために読書の果たす役割は大きく、読書文化を醸成するために、家庭・学校・地域が協働して取り組むことが大切だと思いました。

●子供の言葉を育てるには、やはり、学校教育、家庭教育、社会教育が連携しつつ、それぞれの役割を果たすことが大切であることを改めて感じました。まずは、自分に何ができるか考えることから始めます。

新規高等学校卒業者の就職状況

複数社への応募が可能に

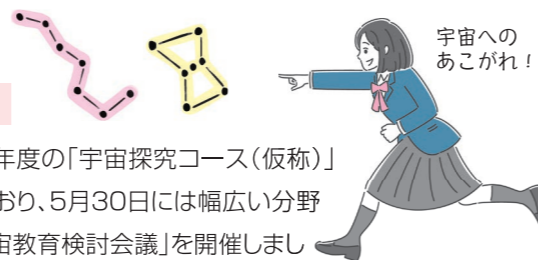
本県では、解禁日から一定期間は一人一社の応募となっていた長年の慣行を、昨年度から複数社への応募ができるよう改めました。それは高校生が積極的かつ主体的な企業研究を行った上で、自らの意思と責任で就職先を選択し、全ての生徒が希望する企業に応募できるようにすることが、企業と生徒のよりよいマッチングにつながると考えたためです。新制度導入に伴って各学校では、県、県教育委員会、労働局、ハローワーク等と連携し、例年以上に丁寧な指導を行いました。また、県内企業の求人倍率が好調であったこともあり、昨年度の就職を希望する新規高等学校卒業者の就職率は99.6%と非常に高い水準になりました。



令和3年度応募前企業ガイダンス

宇宙教育がスタート!

串本で宇宙の学びが始まる



県立串本古座高等学校では、令和6年度の「宇宙探究コース(仮称)」新設に向け、教育課程の検討を進めており、5月30日には幅広い分野の有識者に参加いただいて「第一回宇宙教育検討会議」を開催しました。また、今年度から宇宙関連企業等から講師を招いて行う宇宙講座(講演会)や、県主催の「宇宙シンポジウムin串本」の運営に生徒が参画するなど、宇宙に関連した学びを取り入れています。



宇宙講座の様子

わかやま農業教育一貫プロジェクト

5年一貫の教育システム

農業系高校4校(紀北農芸・有田中央・南部・熊野)と農林大学校が専門的な授業等で連携することによって、5年一貫の教育システムを構築する「わかやま農業教育一貫プロジェクト」が始まりました。これは、農林大学校や研究施設等と連携し、高校の専門科目の学習内容についてレベルアップを図るとともに、こうして学んだ生徒が農林大学校に進学した場合、農業系高校で学んだ科目の一部を免除し、その時間を活用して、より深い研究に取り組めるプロジェクトです。

また、スマート農業や6次産業化についても実践的な実習や研究を行い、高い知識・技能を習得することで、経営的な視点を持った人材や、高い技術力を持った人材が育つことを期待しています。



今年の秋、和歌山で開催!

第42回 近畿高等学校総合文化祭和歌山大会

開催期間/令和4年11月18日(金)~27日(日)

[大会テーマ]

大地に響け 人の和と文化つむぐ青春の旋律

大会テーマ原案...県立橋本高等学校 1年 吉田 芽生 さん(令和3年度当時)
大会テーマ墨書作品...県立紀央館高等学校 3年 加賀 友弥 さん(令和3年度当時)

近畿高等学校総合文化祭は、「近畿は一つ」の合言葉のもとに、芸術文化活動に取り組む近畿を中心とした2府8県の高校生が集い、日頃の活動の成果を発表し、技を競い、交流を深める祭典です。今年の秋、10年ぶりに和歌山県で開催され、総合開会式と16部門の大会に約1万人の高校生が参加します。

- 開催内容** 総合開会式、各部門大会(16部門)
部門大会 合唱、吹奏楽、器楽・管弦楽、日本音楽、演劇、書道、美術・工芸、写真、囲碁、将棋、英語、放送、マーチングバンド・バトントワリング、茶道、自然科学、郷土芸能



公式ホームページ



県立海南高等学校の生徒を中心に組織された生徒企画委員会が、総合開会式の企画・準備を進めています。



大会マスコットキャラクター きちちゃん

ゴールデンキッズ 発掘プロジェクト

体力測定会 (第1ステージ)

優れた素質を有する子供たちを早期に発掘し、将来、国際舞台で活躍できるアスリートを育成します。本年度も小学校3、4年生を対象に募集します。たくさんのご応募お待ちしております!

募集期間 8月25日(木)~9月15日(木)

申込方法

スマホでアクセス
かんたん申し込み

下記サイトより、申込画面に進んでください。



詳しくはホームページをご覧ください。

郵送で申し込み
(FAXでの受付はいたしません)

学校で配付される申込用紙に必要事項を記入し、参加者が直接、下記まで郵送してください。(申込用紙の配付は8月中旬ごろを予定しています。)

〒640-8585 和歌山市小松原通一丁目1番地
県教育庁生涯学習局スポーツ課

和歌山県ゴールデンキッズ発掘プロジェクト

検索

展示・イベント

いずれも休館日は月曜日(祝日の場合は翌平日)です。
※県立近代美術館・県立紀伊風土記の丘・県立自然博物館・県立博物館は有料ですが、高校生以下・65歳以上・障害者の方は無料です。詳しくは各館ホームページをご覧ください。

県立近代美術館

和歌山市吹上1-4-14
☎073-436-8690

なつやすみの美術館12

妻木良三(つまきりょうぞう)

「はじまりの風景」

期 7月5日(火)~9月4日(日)

だれもが気軽に美術館を訪れ、美術の楽しみ方を体験できる展覧会。今回は、鉛筆などで独自の世界を描き出す和歌山県湯浅町出身の妻木良三氏の作品による展覧会を開催します。

妻木良三
(ZONE I)
2017-2022年
(個人蔵)



コレクション展2022 - 夏秋 特集 1960s-1980s

関西の現代美術「再見」

期 7月16日(土)~9月25日(日)

1970年前後に制作され、当館に結集されたコレクションから、その現代美術の現場を「再見」します。



川島慶樹
(Yellow Vacation II)
1986年

県立紀伊風土記の丘

和歌山市岩橋1411
☎073-471-6123

【夏|期|企|画|展|】
「くだものの民具」

期 7月16日(土)~9月4日(日)

ウメ、カキ、ミカンなど和歌山の特産物であるくだものについて、その栽培・収穫・出荷などにまつわる道具や資料、生産技術を紹介して、くだものをめぐる和歌山の農業遺産の特色について紹介します。



下津の蔵出しみかん

県立自然博物館

海南市船尾370-1
☎073-483-1777

【特|別|展|】

海水と淡水の交わる場所
~汽水にくらす魚たち~

期 7月16日(土)~9月4日(日)

今年の特別展のテーマは、海と川の交わる場所、汽水域にくらす魚たちです。汽水域には様々な魚が暮らしており、それらは昔から人間とも深く関わっています。今回の特別展では、そんな汽水域の大切さと面白さをお伝えします。



広大な汽水域が広がる和歌浦干潟

県立博物館

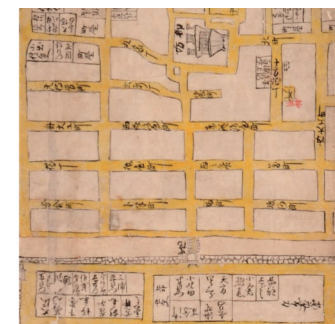
和歌山市吹上1-4-14
☎073-436-8670

【夏|休|み|企|画|展|】

地名のなぞ!?

期 7月16日(土)~8月21日(日)

私たちが普段何気なく使っている地名。地名にはいったいどのような意味や歴史があるのでしょうか?夏休みの自由研究にも活用できるよう、和歌山県内の地名の由来やその移り変わり、地名の調べかたや面白さをわかりやすく紹介します。



和歌山城下町絵図(和歌山県立博物館蔵)

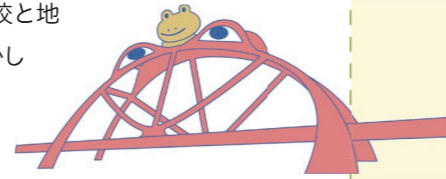
きのくに コミュニティ スクール

vol.11 | 印南町

「きのくにコミュニティスクール」とは、学校運営協議会を設置した学校(コミュニティ・スクール)とそれを支える既存の「共有コミュニティ」等との連携・協働により、社会総掛かりで教育を実現する仕組みです。

印南町では、平成31年度(令和元年度)に4つの小中学校運営協議会を設置し、児童生徒を豊かに育み、人と人とのつながりを構築することを目的に、地域共有コミュニティ事業を継続、発展させながら地域と一体となった学校づくりを進めています。

地域学習や共有ミニ集会の実施、ボランティア活動など地域活動への積極的な参加等により、共に学び、共に育つ場を設けることで、協働した取組を推進しています。開かれた学校から更に一步踏み出し、どのような子供たちを育てるのかという目標やビジョンを学校と地域等が共有し、それぞれの地域の特色を生かしながら、地域とともにある学校を目指して取組を進めています。



きのくに教育めぐり



新宮市 教育委員会



新宮市は、世界遺産「紀伊山地の霊場と参詣道」^①として評価された「熊野参詣道」「大峯奥駈道」をはじめ、熊野新宮の豊かな自然が織りなした多くの自然・文化遺産を有するとともに、佐藤春夫や中上健次、東くめ、西村伊作などの多くの文化人を輩出しています。

message

教育長挨拶

新宮市教育委員会教育長
はやみ しげやす
速水 盛康



熊野速玉大社

新宮市では「人とまちが輝き、『未来』へつなぐまち新宮市」をテーマに、「心豊かな人を育むまち」「魅力ある文化がつなぐにぎわいのまち」を教育行政の政策目標としております。その中で、学校教育・社会教育を通じた生涯学習活動により、市民憲章に謳われている『われら地球人 われら新宮人』を目指すための活動の場を保障し、学習機会を提供し、市民一人ひとりの人権尊重の精神を高める教育・啓発活動を展開しています。

熊野地域の文化交流の拠点となる施設を目指して



丹鶴ホール(外観)

令和3年10月3日、新宮市文化複合施設「丹鶴ホール」^{たんかく}がオープンしました。

「丹鶴ホール」は、文化ホール、図書館、熊野学センター機能を備えた文化交流の拠点施設です。最大収容人員1,142名の文化ホールの客席には移動観覧席が採用されており、通常の劇場型のほか、客席を全て撤去した平土間形式など、開催するイベントに合わせ多様な使い方ができるようになっています。

2階には、旧市民会館から移設した名誉市民・村井正誠氏の壁画や熊野の歴史・文化などを紹介する常設のパネル展示のほか、熊野学を発信していく熊野学研究室があります。



丹鶴ホール(4階:図書館)



丹鶴ホール
TANIGAKI HALL

4階に位置する図書館には、名誉市民で芥川賞作家の中上健次コーナーやCD・DVD視聴コーナー、おはなしのへや等を備えています。また、四方の窓が広く取られており、権現山・神倉神社、新宮城跡や熊野川を一望できるほか、天気の良い日にはデッキに出ることもできます。

ヤタガラス子ども未来プロジェクト

～ふるさとの未来を託せる子供の育成～

新宮市では、郷土への誇りと愛着を育むため、ふるさと教育の充実を図っています。新宮市立神倉小学校では、地域の歴史や文化等を学ぶ「ふるさと学習」を行っています。この学習では、学校運営協議会の委員がコーディネーターとして学校と地域をつなぐことによって、多くのボランティアが児童の学びをサポートしてくださっています。

同校では、この取り組みを「ヤタガラス子ども未来プロジェクト」と名付け、学校運営協議会で話し合いを重ねながらふるさとの未来を託せる子供たちを育成しています。

これまでに、児童は新宮市出身の文化人(佐藤春夫、西村伊作等)、新宮市の伝説や祭り(お燈祭り)、地域の商店街などについて学習しています。



学習の様子(1年生:お燈祭り)

防災教育を通じた地域連携 —切目小・中学校—

コミュニティ・スクールの一環として実施している切目っ子地域連携会議による地震津波避難訓練では、切目小・中学校の児童生徒と地域の人々が合同で避難訓練を実施しています。

令和3年度は、地域の人々とともに登校中を想定した地震津波避難訓練を実施しました。訓練では避難するだけでなく、印南町役場や自主防災組織とも連携し、避難訓練に関する講評やドローンでの空撮、段ボール間仕切り体験、ワークショップ等も実施し、学校・家庭・地域が連携した防災教育を行っています。



(切目小・中学校:自主防災組織による避難訓練の講評)



(切目中学校:住民、生徒合同ワークショップ)

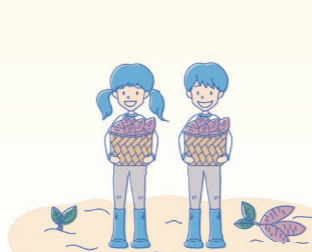
農体験学習を核とした地域交流活動 —稲原小・中学校—



(稲原中学校:田植え)

稲原小学校ではさつまいも栽培を、稲原中学校では平成17年度から始まった稲中農業(田植え・野菜作り等)を、農業士、JA職員、地域住民、保護者とともに進めています。

稲中農業では、収穫した野菜等を活用した調理実習や地域住民との餅つき大会を実施することで、食育や地域交流につなげ、地域とともにある学校を目指した取組を実践しています。



(稲原小学校:さつまいも栽培)

県立図書館 文化情報センター
和歌山市西高松1-7-38 ☎073-436-9530

サマー遊ing2022

～遊びの中で「学ぶ楽しさ・知るよろこび」～

開催期間 令和4年7月21日(木)～24日(日)

場所 県立図書館2階
メディア・アート・ホール、講義・研修室 他

ウミガメの赤ちゃんとふれあい和歌山の海を学ぼう! 他にも、おもしろ工作教室・勾玉づくり教室・貝殻細工教室・らくらくピアノ教室・子ども落語教室など魅力ある教室を実施し、子供たちの学びの場を提供します。



ウミガメ
プリーディング

おもしろ工作教室

勾玉づくり教室



「中学校の教育に関する二つのトピックス」



教育長
みやざき いずみ
宮崎 泉

まず一つ目は、中学校の部活動に関するトピックです。
新聞紙上で中学校の部活動を総合型地域スポーツクラブ等に移行する取組が進んでいるという記事が出ました。特に土日の部活動について、先進地域の活動例が紹介されていました。
部活動は教育活動の一環であるという考えのもと、学校や教員が担ってきました。そのこと自体は、体力・技能の向上とともに、人間関係の構築や自己肯定感の涵養など、教育的意義は大きく、大切なことだと思います。

しかし、今日、学校の規模が小さくなり、やりたい競技が学校の部活動にない場合や、その競技を専門に指導できる教員がいない場合などの問題が出てきました。また部活動指導の負担により教員の業務量が増え、多忙化や過労に繋がるとの指摘もあり、ひいては教員への道を躊躇、断念する一因にもなっているとされています。

一方で部活動に高い専門性を有し、より意欲的に取り組みたいと思っている教員指導者にとっては、今の部活動に忤れたる思いを持っている人もいます。今後、学校の教員もスポーツクラブの指導者としての立場で指導に当たる仕組みを構築できれば、教員としてのやりがいや誇りを持って指導に当たることができると思います。

冒頭のような取組を、平日も含めて考えることにより、持続可能で発展的な部活動といった意味から、有効な手法として積極的に取り入れていきたいと思えます。

もう一つは、中学校の学習に関するトピックです。

今年度新たにすべての公立中学校の全学年、全生徒に、国語・数学・英語の3教科の学習到達度調査を年2回実施することになりました。もう早速4月に1回目の調査が実施されました。

小学校から中学校に入って勉強が難しくなったと感ずることがあります。教科の学習内容が増えたことや、授業の進み方も早くなったのは事実です。中学校の教員は、小学校とのギャップをできるだけ小さくしようと丁寧に取り組んでいます。

中学生の皆さんは、この調査をきっかけに、点数の高低に拘らず、自分の苦手なところや解らないところを克服して、理解を深めるチャンスにして欲しいと思います。

一方で、中学校の教員にとっては、学習到達度調査が増えたことや、学習指導要領も変わったことも相俟って戸惑いもあったことでしょう。しかし、この調査は、日ごろ向き合っている生徒たちをよりよく理解するツールであり、これらを有効に活用して、教員としての力を高め、生徒の成長や学習意欲を促すことに繋げてほしいと思います。

これら二つのトピックスをうまく噛み合わせて、今後の中学校教育が充実していくよう努めてまいります。

トピックス

教育番組「テレビ」「ラジオ」のご案内

テレビ はばたく紀の国 ～教育は今～

放送日時

9月～2月の毎月第1・第3日曜日 10:30～10:50
(9月・1月は第3日曜日のみ)

今後の放送予定

9/18	未来を拓く これからの高等学校教育
10/2	地域がまるごとキャンパスに! ～串本古座高校のコミュニティ・スクール～
10/16	県内美術館との連携した取組について ～和歌山県立近代美術館と田辺市立美術館の取組～
11/6	和歌山の子供の健やかな成長を支える健康教育関係職員研修 ～実践的指導力の向上を目指す実習・演習を通して～
11/20	変わる! わかやまの農業教育 ～「わかやま農業高校マルシェ」の取組を通して～

ラジオ 定期便 教育の窓

放送日時

4月～3月の毎月第2・第4火曜日 18:30～18:45
(月によって放送のない週があります。)

今後の放送予定

7/26	ゴールデンキッズ発掘プロジェクト ～集まれ未来のアスリート!!～
8/9	特別展 海水と淡水の交わる場所 ～汽水にくらす魚たち～
9/13	宇宙教育スタート ～総合的な探究の時間における宇宙関連学習～
9/27	子供のやりたい! をカタチに ～コロナ禍における児童会活動の工夫～
10/11	秋期特別展「紀氏、大地を開く―宮井用水と耕地開発―」

※ラジオ・テレビとも、これまでに放送した番組については、和歌山県教育委員会ホームページ内(下記参照)で公開しています。

※テレビは全ての番組に手話通訳が付き、都合により放送内容が変更になる場合があります。



テレビ

和歌山県 教育広報番組

検索



ラジオ

トピックス

奨学のための給付金(高校生等奨学給付金)制度について

高校生等の授業料以外の教育費を軽減するため、以下の要件を満たす世帯に対し、奨学のための給付金(高校生等奨学給付金)を給付します。

- 令和4年7月1日現在、以下の要件を全て満たしている方(世帯)
- ①高校生等が高等学校等就学支援金又は学び直し支援金の対象である学校に在学していること
 - ②保護者等が生活保護を受給(生業扶助を措置)又は令和4年度の道府県民税所得割の額と市町村民税所得割の額とを合算した額が0円(非課税)であること、若しくは家計が急変し、非課税相当となっていること
 - ③保護者等が和歌山県内に住所を有していること
 - ④高校生等が高等学校等就学支援金又は学び直し支援金支給の資格を有する者であること

校内の学校へ通学されている方は学校を通じて、提出してください。
通学されている学校で申請書を受け取り、必要書類を添付のうえ学校へ提出してください。

県外の学校へ通学されている方は県へ直接申請してください。
申請書は下記問合せ先で直接入手するか、郵送を希望される場合、下記の問合せ先までその旨連絡してください。

申請書等は右記QRコード先のサイトからもダウンロード可能です。



公立



私立

●問合せ先

- 公立 県生涯学習課 奨学班 ☎073-441-3728
- 私立 県文化芸術課 学術振興班 ☎073-441-2098

QRコードは(株)デンソーウェブの登録商標です。

トピックス

求む! 熱意のある先生 ～和歌山県教育委員会から補充講師登録のお知らせ～

和歌山県では、講師登録者を募集しています。
学校で勤務してみたい方はぜひご登録ください。

申し込みは下記各所まで
応募書類を郵送もしくは
持参のこと。

- 募集区分 常勤講師、非常勤講師
- 応募資格 それぞれに必要な資格・免許を有する方
- 応募書類配布 和歌山県教育委員会教職員課のWEBサイト

- 問合せ先 小中学校希望:紀北(有田地方以北)→紀北教育事務所
紀南(日高地方以南)→紀南教育事務所
県立高校・特別支援学校希望(全県)→教職員課

